

産婦人科学

1 構成員

| | 平成19年3月31日現在 |
|----------------|--------------|
| 教授 | 1人 |
| 助教授 | 2人 |
| 講師（うち病院籍） | 2人（2人） |
| 助手（うち病院籍） | 4人（1人） |
| 医員 | 4人 |
| 研修医 | 0人 |
| 特別研究員 | 0人 |
| 大学院学生（うち他講座から） | 5人（0人） |
| 研究生 | 1人 |
| 外国人客員研究員 | 0人 |
| 技術職員（教務職員を含む） | 0人 |
| その他（技術補佐員等） | 4人 |
| 合 計 | 23人 |

2 教員の異動状況

| | |
|------------|---------------------------|
| 金山 尚裕（教授） | （H11. 11. 1～現職） |
| 杉村 基（助教授） | （H14. 10. 1～現職） |
| 杉原 一廣（助教授） | （H19. 3. 1～現職） |
| 西口 富三（講師） | （H12. 1. 1～H19. 3. 31退職） |
| 大井 豪一（講師） | （H16. 11. 1～H19. 3. 31退職） |
| 小澤 英親（助手） | （H15. 7. 1～H18. 12. 31退職） |
| 竹内 欽哉（助手） | （H15. 8. 1～現職） |
| 河村 隆一（助手） | （H16. 11. 1～現職） |
| 木村 聡（助手） | （H17. 6. 1～現職） |
| 宮部 勇樹（助手） | （H17. 7. 1～現職） |

3 研究業績

数字は小数2位まで。

| | 平成18年度 |
|---------------------|---------|
| (1) 原著論文数（うち邦文のもの） | 11編（1編） |
| そのインパクトファクターの合計 | 48.37 |
| (2) 論文形式のプロシーディングズ数 | 0編 |
| (3) 総説数（うち邦文のもの） | 9編（9編） |
| そのインパクトファクターの合計 | 0 |

| | |
|---------------------|------------|
| (4) 著書数 (うち邦文のもの) | 25編 (25編) |
| (5) 症例報告数 (うち邦文のもの) | 1編 (0編) |
| そのインパクトファクターの合計 | 1.14 |

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Kawamura T, Kakogawa J, Takeuchi Y, Takani S, Kimura S, Nishiguchi T, Sugimura M, Sumimoto K, Kanayama N: Measurement of placental oxygenation by transabdominal near-infrared spectroscopy. *Am J Perinatol* 24(3): 161-166, 2007.
2. Sugihara K, Sugiyama D, Byrne J, Wolf DP, Lowitz KP, Kobayashi Y, Kabir-Salmani M, Nadano D, Aoki D, Nozawa S, Nakayama J, Mustelin T, Ruoslahti E, Yamaguchi N, Fukuda MN. : Trophoblast cell activation by trophinin ligation is implicated in human embryo implantation. *Proc Natl Acad Sci U S A* 104(10): 3799-3804, 2007.
3. Iwaki T, Donahue DL, Castellino FJ: High levels of LDL-cholesterol rescue the neonatal mortality associated with afibrinogenemia in mice. *J Thromb Haemost* 5(3): 624-626, 2007.
4. Iwaki T, Castellino FJ: Plasma levels of bradykinin are suppressed in factor XII-deficient mice. *Thromb Haemost* 95(6): 1003-1010, 2006.
5. Iwaki T, Sandoval-Cooper MJ, Brechmann M, Ploplis VA, Castellino FJ: A fibrinogen deficiency accelerates the initiation of LDL cholesterol-driven atherosclerosis via thrombin generation and platelet activation in genetically predisposed mice. *Blood* 107(10): 3883-3891, 2006.
6. Suzuki M, Mose ES, Montel V, Tarin D: Dormant cancer cells retrieved from metastasis-free organs regain tumorigenic and metastatic potency. *Am J Pathol* 169(2): 673-681, 2006.

インパクトファクターの小計 [35.16]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 俵 史子, 平林由佳, 石井美都, 入江緩菜, 森下美由紀, 佐橋愛子, 大石恵, 金山尚裕: ホルモン補充周期における子宮管抵抗と妊娠予後の検討 *日本受精着床学会雑誌* 23(1): 188-191, 2006.
2. Hirabayashi Y, Tawara F, Ishii M, Muramatsu, Kanayama N: Evaluation of rescue ICSI on oocytes without extrusion of the second polar body in cases of moderately disturbed fertilization. *J. Mamm. Ova Res.* (23): 135-140, 2006.
3. Sadzuka Y, Iwasaki F, Sugiyama I, Horiuchi K, Hirano T, Ozawa H, Kanayama N, Sonobe T: Study on liposomalization of zinc-coproporphyrin I as a novel drug in photodynamic therapy. *Int J Pharm* 9(2), 2007.
4. Cruz-Topete D, Iwaki T, Ploplis VA, Castellino FJ: Delayed inflammatory responses to endotoxin in fibrinogen-deficient mice. *J Pathol* 210(3): 325-333, 2006.
5. Kaseba-Sata C, Kasolo F, Ichiyama K, Mitarai S, Nishiyama A, Kanayama N, Wakasugi N: Increased risk of intrauterine transmission of HIV-1 associated with granulocyte elastase in

endocervical mucus. J Acquir Immune Defic Syndr 41: 249-251, 2006.

インパクトファクターの小計 [13.21]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 谷口千津子, 加賀俊章, 沼野由紀, 和田久恵, 小澤英親, 大井豪一, 茂庭将彦, 小林 浩, 金山尚裕: 敗血症性ショックにより診断された卵管留膿腫の1例 産婦人科の実際 55(4): 729-733, 2006.
2. 杉村 基: 切迫早産, 頸管無力症 臨床婦人科産科 60(7): 994-997, 2006.
3. 金山尚裕: 妊娠中の栄養管理 日本産科婦人科学会雑誌 58(9): 1508-1513, 2006.
4. 竹内欽哉, 金山尚裕: エストロゲン単独投与が奏効した自殺企画を繰り返すうつ病の1例 産婦人科の実際 55(9): 1471-1474, 2006.
5. 西口富三: 尿閉・無尿となったら 産科と婦人科 73(11): 210-213, 2006.
6. 杉村 基: 血液疾患合併妊娠-周産期専門医- 周産期医学 36(9) 1097-1100, 2006.
7. 杉村 基: 周産期における特殊性 バスキュラー・ラボ 3(4): 58-63, 2006.
8. 杉村 基: 常位胎盤早期剥離 周産期医学 36増刊: 291-293, 2006.
9. 杉村 基: 妊産婦における深部静脈血栓肺塞栓症 血液凝固系に關与する諸因子 産科と婦人科 73(3): 293-299, 2006.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 金山尚裕: 疼痛(腹痛・下腹部・腰痛) 新撰産婦人科診療: 11-14, 永井書店, 2006.
2. 河村隆一, 金山尚裕: 浮腫 新撰産婦人科診療: 18-21, 永井書店, 2006.
3. 金山尚裕: 急性腹症 新撰産婦人科診療: 26-30, 永井書店, 2006.
4. 金山尚裕: 常位胎盤早期剥離 新撰産婦人科診療: 247-249, 永井書店, 2006.
5. 金山尚裕: 頸管無力症 新撰産婦人科診療: 250-251, 永井書店, 2006.
6. 金山尚裕: 切迫早産 新撰産婦人科診療: 252-257, 永井書店, 2006.
7. 金山尚裕: 前期破水(PROM) 新撰産婦人科診療: 257-260, 永井書店, 2006.
8. 水主川純, 金山尚裕: 妊娠悪阻 新撰産婦人科診療: 265-267, 永井書店, 2006.
9. 金山尚裕: HELLP症候群 新撰産婦人科診療: 271-273, 永井書店, 2006.
10. 金山尚裕: 産道異常 新撰産婦人科診療: 308-312, 永井書店, 2006.
11. 大井豪一, 金山尚裕: 羊水塞栓症 新撰産婦人科診療: 328-330, 永井書店, 2006.
12. 杉村 基, 金山尚裕: 妊娠, 産褥血栓症 新撰産婦人科診療: 331-334, 永井書店, 2006.
13. 金山尚裕: 分娩誘発法 新撰産婦人科診療: 467-470, 永井書店, 2006.
14. 金山尚裕: 帝王切開術 新撰産婦人科診療: 486-488, 永井書店, 2006.
15. 金山尚裕: 産科手術のコツ 新撰産婦人科診療: 497-499, 永井書店, 2006.
16. 金山尚裕: 膣・頸管分泌物検査 新撰産婦人科診療: 600-602, 永井書店, 2006.

17. 金山尚裕：月経異常 今日の小児治療指針第14版: 475-476, 医学書院, 2006.
18. 西口富三, 金山尚裕：DIC 臨床エビデンス産科学第2版: 193-202, メジカルビュー社, 2006.
19. 杉村 基, 金山尚裕：異常出血, 産科ショック 臨床エビデンス産科学第2版: 203-219, メジカルビュー社, 2006.
20. 金山尚裕：産科出血, 産科ショック 今日の治療指針2007: 917, 医学書院, 2007.
21. 金山尚裕：分娩発来機序と早産 早産－最新の知見と取り扱い－: 11-18, メジカルビュー社, 2007.
22. 杉村 基：抗炎症薬 早産－最新の知見と取り扱い－: 116-121, メジカルビュー社, 2007.
23. 金山尚裕：新撰産婦人科診療 永井書店, 2006. (編集)
24. 金山尚裕：早産－最新の知見と取り扱い－ メジカルビュー社, 2007. (編集)
25. 金山尚裕：病気がみえるVol. 10 産科 メディックメディア, 2007. (監修)

(5) 症例報告

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Iijima S, Ohzeki T, Sugimura M, Kanayama N: Congenital chloride diarrhea in pregnancy: A case report. Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol 28(9), 2006.

インパクトファクターの小計 [1.14]

4 特許等の出願状況

| | 平成18年度 |
|--------------|--------|
| 特許取得数（出願中含む） | 1件 |

1. 光線力学用キット

発明者 金山尚裕, 堀内健太郎, 小澤英親, 平野達, 河野栄治

出願公開番号2006-015530

国際出願 PCT/JP2007/051040号 国際出願年月日2007年3月12日

出願国, 指定国すべて

5 医学研究費取得状況

| | 平成18年度 |
|--------------------|--------------|
| (1) 文部科学省科学研究費 | 2件 (1,130万円) |
| (2) 厚生科学研究費 | 1件 (20万円) |
| (3) 他政府機関による研究助成 | 0件 (0万円) |
| (4) 財団助成金 | 0件 (0万円) |
| (5) 受託研究または共同研究 | 0件 (0万円) |
| (6) 奨学寄附金その他（民間より） | 7件 (780万円) |

(1) 文部科学省科学研究費

西口富三（代表者）基盤研究（C）(2) 産褥期深部静脈血栓お発症期機序に関する検討90万円

(継続)

金山尚裕 (代表者) 基盤研究 (B) 母体腹壁からの非侵襲的胎児酸素モニタリングの開発1,040万円 (新規)

(2) 厚生科学研究費

金山尚裕 (分担者) 産科領域における医療事故の解析と予防対策に関する研究20万円 (継続)
代表者 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 中林正雄

7 学会活動

| | 国際学会 | 国内学会 |
|-----------------|------|------|
| (1) 特別講演・招待講演回数 | 0件 | 1件 |
| (2) シンポジウム発表数 | 3件 | 0件 |
| (3) 学会座長回数 | 1件 | 14件 |
| (4) 学会開催回数 | 0件 | 2件 |
| (5) 学会役員等回数 | 0件 | 23件 |
| (6) 一般演題発表数 | 2件 | |

(1) 国際学会等開催・参加

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Kawamura T: Transabdominal measurement of oxygenation status of the intrauterine growth retardation placenta by near-infrared spectroscopy, The 12th International Federation of Placenta Associations Meeting, September 2006, Kobe, Japan.
2. Kanayama N: Deficiency in p57^{Kip2} expression induces placentomegaly and preeclampsia-like symptoms in mice, The 12th International Federation of Placenta Associations Meeting, September 2006, Kobe, Japan.
3. Kanayama N: A new Monitoring Method of IUGR Fetus. X V III FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics, November 2006, Kuala Lumpur, Malaysia.

4) 国際学会・会議等での座長

1. Kanayama N: The 12th International Federation of Placenta Associations Meeting, September 2006, Kobe, Japan.

5) 一般発表

口頭発表

1. Miyabe Y: A New Laparoscopic Approach to Pelvic Reconstructive Surgery. AAGL 35th Annual Meeting, November 2006, Las Vegas, U. S. A.
2. Kakogawa J, Kawamura T, Kano T, Inamoto Y, Sumimoto K, Kanayama N: A Non-invasive method for monitoring oxygenation status of uterus. X V III FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics, November 2006, Kuala Lumpur, Malaysia.

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

金山尚裕 第29回日本産科婦人科ME学会 7月21～22日, 浜松

金山尚裕 第24回周産期医療研究会 10月14日, 浜松

2) 学会における特別講演・招待講演

杉村 基：わかりやすい古くて新しいお産の話, 第28回浜松医科大学公開講座「続・わかりやすい〇〇病の話」, 8月, 浜松

4) 座長をした学会名

1. 金山尚裕 第58回日本産科婦人科学会 4月, 横浜

2. 金山尚裕 第9回日独シンポジウム 4月, 京都

3. 西口富三 日本ビタミン学会第58回大会 5月, 徳島

4. 杉村 基 第11回生殖医学フォーラム 6月, 志摩

5. 西口富三 第111回日本産科婦人科学会関東連合地方部会 6月, 東京

6. 金山尚裕 第42回日本周産期・新生児医学会 7月, 宮崎

7. 金山尚裕 第29回日本産科婦人科ME学会 7月, 浜松

8. 金山尚裕 第7回JSAWIシンポジウム 9月, 淡路

9. 金山尚裕 第24回日本受精着床学会 9月, 軽井沢

10. 金山尚裕 第47回日本母性衛生学会 9月, 東京

11. 金山尚裕 第27回日本妊娠高血圧学会 10月, 新潟

12. 西口富三 第24回周産期医療研究会 10月, 浜松

13. 杉村 基 第24回周産期医療研究会 10月, 浜松

14. 西口富三 第112回日本産科婦人科学会 10月, 横浜

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

金山尚裕 日本産婦人科学会代議員

金山尚裕 日本胎盤学会理事

金山尚裕 日本妊娠高血圧学会理事

金山尚裕 日本産婦人科学会関東連合地方部会理事

金山尚裕 日本栄養代謝学会理事

金山尚裕 日本結合組織学会評議員

金山尚裕 日本新生児学会評議員

金山尚裕 日本母性衛生学会評議員

金山尚裕 日本産婦人科新生児血液学会評議員

金山尚裕 日本周産期学会幹事

金山尚裕 日本産婦人科ME学会常任幹事

金山尚裕 日本結合組織学会評議員

金山尚裕 中部不妊学会評議員
 金山尚裕 静岡県ウィルス研究会幹事
 金山尚裕 静岡県母性衛生学会常任理事
 金山尚裕 日本産婦人科医会静岡県支部理事
 杉村 基 日本産婦人科学会代議員
 西口富三 日本産婦人科新生児血液学会評議員
 西口富三 日本産婦人科医会静岡県支部理事
 西口富三 静岡県母性衛生学会学術担当常任理事
 西口富三 日本産婦人科学会代議員
 西口富三 浜松市産婦人科医会常任理事
 西口富三 日本産婦人科乳癌学会評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

| | 国内 | 外国 |
|-------------------|----|----|
| 学術雑誌編集数（レフリー数は除く） | 0件 | 0件 |

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

Journal of Obstetrics and Gynecological Research（日本）2回
 母性衛生学会雑誌（日本）1回

9 共同研究の実施状況

| | 平成18年度 |
|------------|--------|
| (1) 国際共同研究 | 1件 |
| (2) 国内共同研究 | 4件 |
| (3) 学内共同研究 | 2件 |

(1) 国際共同研究

トロフィニンの着床における役割，ラホーヤ研究所（米国），Sugihara K, Sugiyama D, Byrne J, Wolf DP, Lowitz KP, Kobayashi Y, Kabir-Salmani M, Nadano D, Aoki D, Nozawa S, Nakayama J, Mustelin T, Ruoslahti E, Yamaguchi N, Fukuda MN. : Trophoblast cell activation by trophinin ligation is implicated in human embryo implantation. Proc Natl Acad Sci U S A 104(10): 3799-3804, 2007.

(2) 国内共同研究

金山尚裕 子宮筋の非侵襲的酸素動態モニタリングの開発（昭和大学，国立国際医療センター，浜松ホトニクス）
 金山尚裕 コンピュータシミュレーションによる難産診断装置の開発（川崎医療短大）
 金山尚裕 表面酸素濃度測定装置の開発（浜松ホトニクス）
 金山尚裕 ウリナスタチンによる早産防止の検討（日本早産予防研究会）

(3) 学内共同研究

- 金山尚裕 胎盤の臭覚受容体に関する研究 (解剖学教室)
子宮頸癌のPDT治療 (光量子センター, 生命科学)

10 産学共同研究

| | |
|--------|--------|
| | 平成18年度 |
| 産学共同研究 | 3件 |

1. 金山尚裕 子宮筋の非侵襲的酸素動態モニタリングの開発 (浜松ホトニクス)
2. 金山尚裕 表面酸素濃度測定装置の開発 浜松ホトニクス (金山尚裕)
3. 金山尚裕 精子の活性化を起こす栄養補助食品の開発 イー・エイチ・エイ株式会社 (金山尚裕)

11 受賞

(3) 国内での受賞

1. 宮部勇樹 日本産科婦人科内視鏡学会 学会賞 (論文部門) 2007年3月

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 光学的手法を用いた胎盤の酸素動態を測定するための機器の開発

胎児の非侵襲的生化学的モニタリング法の開発を行なっている。胎盤の酸素動態を直接あるいは間接的に監視できる機器の開発に成功した。これを用いて臨床的有用性を検討した。平成17年度より多施設共同研究を開始した。

(金山尚裕)

2. 新規光増感剤亜鉛コプロポルフィリンの開発 (COEプロジェクト)

平成14年より本学で採用されたCOEのプロジェクトメンバーとして子宮頸癌の新規光増感剤作成のプロジェクトチームを立ち上げた。副作用の少ない光増感剤を胎児由来物質から探求するのが目的である。その中から亜鉛コプロポルフィリンが胎児由来な有望な光増感剤であることを見だし特許を提出した。

(金山尚裕)

3. 光増感剤の局所投与キットの開発

現在子宮頸癌の光線力学治療に使用されているフォトフィリンは光過敏性物質であるため、治療後約4週間の入院が必要であった。局所投与で静脈投与と同程度の効果を発揮するキットを開発した。これを用いると入院期間が大幅に短縮されることが考えられる。今後臨床応用を行う予定である。

(金山尚裕)

4. 静脈血栓症の血液凝固学的予知マーカーは従来よいものは存在しなかった。プロテインCの感受性を測定する簡易方法を開発した。これを用いて妊婦の深部静脈血栓症, 肺血栓塞栓症の予知が

可能になる。

(杉村 基, 金山尚裕)

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

1. 光増感剤の局所投与キットの開発

倫理委員会に申請し認可された。最近増加している若年の子宮頸癌に2007年より臨床応用可能となった。

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

1. 着床時の接着分子であるトロフィニンの作用機序を杉原准教授が発見し, Proc Natl Acad Sci U S Aに発表した。本研究はラホーヤ研究所 (米国) との共同研究である。

15 新聞, 雑誌等による報道

1. 金山尚裕, 平井久也: 歯周病と妊産婦 母子保健 6月号: 4, 2006.
2. 金山尚裕, 西口富三, 和田久恵: 浜松医科大学医学部附属病院産科婦人科女性漢方外来 漢方医学(30): 131-134, 2006.